

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成18年度)をご参照下さい。

担当公館名：在ヨルダン日本国大使館	
国名：ヨルダン	案件名：キングフセイン橋架け替え計画
E/N署名日：2000年1月19日	供与限度額：12.15億円
先方実施機関：公共事業省	完工日：2001年3月22日
他の関連協力：特になし	
1. 案件の目的	1994年10月のヨルダン・イスラエル間での平和条約の締結などにより、ヨルダン川を挟んだ人的・物的交通量が増加し、キングフセイン橋は西岸地域居住のパレスチナ人にとって域外へのほぼ唯一の出入口としての重要性がますます高まっていた。当時の橋は1967年の第3次中東戦争の終結後に架けられた仮設橋で高さが不十分なため洪水時には水没し、また一車線のため往復同時の車両通行ができず円滑な交通を阻害していた。交通、流通上の機能の向上は地域間協調の最大の条件であるという認識のもとに、この地域での新しい政治的、社会的、経済的関係の育成のため、キングフセイン橋を永久橋に架け替え、同時に橋へ接続する道路や国境施設等を充実させる本計画を策定した。
2. 案件の内容	橋梁建設（4車線120m 幅員18.9m（車道7.4m×2、歩道1.5m×2））、取付道路（（ヨルダン側）4車線約770m（西岸側）4車線20m（残りの西岸側の取付道路はイスラエル側が建設））及びアクセス道路（2車線7.7km）の建設。
3. 案件の妥当性	<p>一般的評価：A （外部有識者による二次評価A）</p> <p>詳細評価：キングフセイン橋は、ヨルダンと西岸地区（パレスチナ自治区）との間の交通の要衝に位置し、西岸地域とヨルダンとを結ぶ唯一の橋として、特に西岸地域から域外への人及び物資の移動に極めて重要な役割を果たしている。</p> <p>架け替え以前の橋は軍用の橋（桁は組み立て式の鋼製トラス、路面は木版を並べた仮設橋）であり、構造的に十分でないとともに、橋面の高さが低く大規模洪水発生時には冠水し、その間の通行が不能もしくは困難となる、また、1車線であるため往復同時の車両通過ができないなど円滑な交通を阻害していた。本案件により仮設橋が永久橋に架け替えられ、取付道路を建設し、あわせてアクセス道路の改良を行うことで、円滑な交通が実現した。</p> <p>我が国の対ヨルダン支援は、中東和平の当事者であるヨルダンが建設的な外交姿勢を引き続き維持できるよう、対ヨルダン経済協力によりヨルダン国内の安定を支援し、以て中東和平の早期実現を図り、産油国が集中する中東地域全体の安定に資することを目的としており、2003年にヨルダン計画・国際協力省と現地ODAタスクフォースとの間で実施された政策協議においても「周辺国に直接裨益し、中東和平に資する案件の積極的な発掘に努める」とする基本方針に合意している。本プロジェクトは右我が国支援の基本方針に合致するものであり、中東和平に向けた我が国の協力の具体的成果として象徴的な案件である。</p>

	<p>また、中東地域の平和と安定を通じて、キングフセイン橋を活用した長期的な地域開発効果、輸出産業育成効果、観光産業振興効果等ヨルダンの産業育成にも貢献することが期待され、これは上記政策協議において合意された対ヨルダン支援重点支援分野（産業振興）にも合致するものである。</p> <p>2006年、ヨルダン政府は今後10年間の政治・経済・社会面での改革の枠組みを定めるものとして「国家アジェンダ」を策定し、雇用創出、貧困削減、経済成長等具体的な数値目標を掲げているが、本プロジェクトは産業振興を通じて間接的にこれら目標の達成にも貢献するものと考えられる。</p>
<p>4. 施設／機材の適切性・効率性</p>	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A)</p> <p>詳細評価：ヨルダン川は洪水を引き起こしやすいことが特色であり、架け替え前は大規模な洪水が発生すると路面が冠水し、通行止めとなっていた。当該プロジェクト・サイトは長年の係争地帯に位置しているため十分な水理データを得ることはできなかったが、当該サイトにおける1932年～1958年の年間最大流量のデータ、当該サイトから北約90kmにあるナハラタイム水位観測点のデータ、当該サイト周辺の最近の洪水のデータを利用しつつ、気候、地質、地震等の条件を考慮し、設計した結果、架け替え後の橋は橋面が十分な高さに位置し、橋梁及び取付道路ともに洪水に耐えうる設計となっていることが確認され、年間交通が確保されている。また、橋梁及び取付道路は4車線であり、円滑な交通が確保されている。</p>
<p>5. 効果の発現状況（有効性）</p>	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A-)</p> <p>詳細評価：地域の政治及び社会情勢に左右されるため交通量の目立った増加はみられないが、本プロジェクトによる架け替えによりキングフセイン橋はヨルダンと西岸地区（パレスチナ自治区）を繋ぐ唯一の永久橋として、また、唯一の国境施設として、パレスチナを取り巻く状況が厳しさを増す中、物資及び人の移動に大変重要な役割を担っている。また、橋の維持費について、完工前は年間1500JD程度であったものが完工後には1000JDとなり、また現在は年間800JD程度となっており完工直後より現在のほうが少額となっているため効率的な運営がされていると考えられる。</p>
<p>6. インパクト（上位目標への影響等）</p>	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A-)</p> <p>詳細評価：本プロジェクトは、中東和平実現の中で関連地域間交通の円滑な流動を実現することを目的として実施されたものであるが、キングフセイン橋が現在ヨルダン・西岸地区間の物資及び人の移動の唯一の窓口として機能していることは、当初のプロジェクト目的を達成したものとして評価できる。</p> <p>中東和平の実現を左右するパレスチナ経済の自立発展のためには、パレスチナ産品の消費地及び第三国への輸出のための拠点として、隣国、特にヨルダンとの関係強化が重要であり、今後ヨルダン・西岸地区を結ぶ唯一の永久橋であるキングフセイン橋の重要性はますます高まることが予想される。また、西岸地区との貿易関係の強化はヨルダン政府による重要な政策目標である国内の産業振興にとっても有益である。</p>

	<p>また、中東和平の当事者であるヨルダン、パレスチナ、イスラエルと我が国との協力で、様々な課題を乗り越えつつ、本プロジェクトを成功裡に実施することが出来たことは、関係者間の信頼の醸成、相互理解の向上等に資する極めて画期的なプロジェクトとして、我が国の対ヨルダン支援の最終目標である中東和平を実現する上でも大きなインパクトを与えたものであり、今後の我が国の中東和平への貢献を考える上でも好事例として非常に意義深い。</p>
<p>7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)</p>	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A)</p> <p>詳細評価：架け替え前の橋梁及び道路について、公共事業省が管理しており、その管理体制及びメンテナンスは十分であり、架け替え後も引き続き公共事業省により十分な維持管理が行われている。</p>
(1) 対応方針	
(2) 対応方針理由	
<p>8. 広報効果（ビジビリティー）</p>	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A)</p> <p>詳細評価：キングフセイン橋は日本による中東和平の架け橋として、又ヨルダン及び西岸地区（パレスチナ自治区）に住む人々の日々の生活を支える交通の重要な拠点として、日本及びヨルダンにおいてだけでなくイスラエル、パレスチナ、各ドナー国・国際機関等からも高く評価されており、広報効果は高い。</p> <p>本プロジェクトはE/N等署名、起工・竣工式等の機会を通じて新聞、テレビ等各メディアに広く取り上げられ、また、ヨルダン政府が2001年「日本とヨルダンの協力」と題する記念切手を発行した際にも、右記念切手の図柄としてキングフセイブリッジが使用されるなど、広報手法も適切であり、本プロジェクトについて被援助国政府関係者、一般市民、マスコミ等に広く認知されている。</p>
<p>9. 被援助国による評価 (外交的効果についても、本欄に記述する)</p>	<p>本件キングフセイン橋の架け替えは我が国とヨルダンの協力関係より実現したものであり、中東和平の象徴としてヨルダンにおける我が国の代表的な無償資金協力としてアブドゥラー国王をはじめとする王族関係者や政府要人に広く認識されており、我が国要人との会談においてもしばしば言及され、右支援に関する謝意が表明されるなど高い評価を得ている。</p> <p>また、実施監督機関である公共事業省及びヨルダンにおける援助受入の窓口機関である計画・国際協力省担当者は、西岸地区とヨルダンとの経済的結びつきを強化するためのインフラ整備として最優先で取り組むべき懸案であった本プロジェクトがパレスチナ自治政府のみならずイスラエル政府の協力を得て我が国の支援を通じて成功裡に実現したことに対し、域内協力のモデルケースとして高く評価している。</p> <p>8. で述べたとおり、本プロジェクトは、各メディアにおいて広く取り上げられ一般市民、マスコミ等に広く認知されている。歴史的に西岸地区と強い結び付き</p>

	<p>を有するヨルダン国民にとっても、西岸地区への唯一の玄関口として親族の相互訪問等のために欠かせないインフラとして、また、困難な状況にある西岸地区住民及びヨルダン・西岸地区間の貿易に携わる民間業者にとっても、ヨルダンからの緊急支援を含む物資輸送の拠点となる生命線としてその重要性について広く認識されている。</p> <p>また、6. でも述べたとおり、本プロジェクトを通じて中東和平の当事者であるヨルダン、パレスチナ、イスラエルと我が国との協力で、様々な課題を乗り越えつつ、本プロジェクトを成功裡に実施することが出来たことは、関係者間の信頼の醸成、相互理解の向上等に資する極めて画期的なプロジェクトとして、我が国の対ヨルダン支援の最終目標である中東和平を実現する上でも大きなインパクトを与えたものであり、今後の我が国の中東和平への貢献を考える上でも好事例として非常に意義深い。</p>
10. 提言・教訓	<p>ヨルダンは、周囲をイラク、イスラエル、パレスチナ、シリア、サウジアラビアに囲まれ、地政学的に中東和平の鍵を握っている国の一つとして我が国にとって中東地域の平和と安定という目的を共有する重要な域内パートナーである。本プロジェクトは、無償資金協力の効果が、ヨルダンだけのみならずイスラエル占領地である西岸地区（パレスチナ自治区）にも及ぶプロジェクトであり、建設にあたってイスラエルの管理権等も含めた特殊事情が存していたにもかかわらず、完工され、また適切な維持管理により、ヨルダンと西岸地区を結ぶ唯一の橋として現在も設備が有効利用されている。これは、我が国の中東和平プロセスにおけるプレゼンスを高めるものであり、また中東和平への貢献における具体的事例として象徴的役割を果たしているといえる。中東和平の当事者であるヨルダン、パレスチナ及びイスラエルと我が国との協力の下実現した画期的なプロジェクトとして、本プロジェクトの採択、関係国との調整過程、実施過程及び成果は今後同種の支援を検討する上でも好事例となるものであると考える。</p>
11. その他	